

いま

戦争を

考える

2022
1.29 [SAT]
13:30-16:30

社会学・社会福祉学の視座から

日本マス・コミュニケーション学会／立命館大学
福間良明 「戦争とメディア・大衆文化」

日本社会学会／一橋大学
佐藤文香 「戦争とジェンダー・性暴力」

数理社会学会／関西学院大学
渡邊勉 「戦争と階層・格差・不平等」

日本社会福祉学会／日本福祉大学
藤井渉 「戦争と障害者・動員・福祉」

社会学系コンソーシアム | 日本学術会議
第14回シンポジウム

オンライン Zoom ウェビナー

こちらより事前にご登録ください。▶
(定員：先着 500名)



〈開会のごあいさつ〉

日本学術会議委員／東京大学 白波瀬佐和子
社会学系コンソーシアム理事長／立教大学 関礼子

〈討論者コメント〉

日本社会学会／東京大学名誉教授
上野千鶴子

関東社会学会／筑波大学
野上元

〈閉会のごあいさつ〉

日本学術会議委員／東京大学 有田伸

〈趣旨説明・オーガナイザー・司会〉

関西社会学会／明治学院大学

石原俊

コロナ禍のなかで、さまざまな社会的問題が露呈した。そうした問題が、近代以降の日本社会の軌跡、特にアジア太平洋戦争と関連づけて語られることも少なくない。

第二次世界大戦の終結から75年以上が経過したいま、戦争体験者の加齢が進み、「戦争を知らない世代」が大多数となった。「戦後80年」までの間に、アジア太平洋戦争での軍隊経験をもつ世代はもちろん、空襲や地上戦の経験をもつ世代が、日本社会からほとんどいなくなると思われる。

一方で、21世紀に入り、「対テロ戦争」の拡大、民間軍事会社の台頭、インターネット・人工知能技術に支えられた無人兵器の拡大など、戦争・軍事のあり方も大きく変容した。そして依然として、戦争は世界各地で繰り返されている。

だが、現在の日本社会では全体として、戦争・軍事に関する「感度」が減衰した状態がみられる。これからのグローバル社会における日本のあり方を考えるとき、社会の構成員の戦争・軍事に対する「感度」を、これ以上鈍化させてはならないだろう。

本シンポジウムでは、理論研究・質的研究・計量研究・国際比較研究で第一線を担う研究者からの報告をもとに、戦争・軍事について社会的・社会福祉学的観点から考える機会としたい。